



海老沼小だより

～かしこく やさしく たくましく生き抜く子
笑顔と歌声あふれる学校～

6月号

平成30年5月31日

さいたま市立海老沼小学校

思いやりの心 正しい心

校長 森 裕子

5月は、五月晴れに負けない、心に澄んだ青空が広がるような出来事が2つありました。1つは、2日に行った離任式です。お世話になった、なつかしい先生方を迎える子ども達の輝く笑顔、心を込めた歌声、代表児童によるお別れの挨拶、いつもながらどれも感動的でした。そして、式の終わりに先生方が退場される時、私はちょっと離れたところから見ていたのですが、子ども達の誰もがひたむきな表情で、先生方を少しでも近くで見送りたいという思いをいっぱいにして、全体が動いて花道を作っていたのです。それは、映像のように目に飛び込んで来て、言いようのない感動の瞬間でした。もう一つは、市教育委員会主催の「ふれあい夢ファーム」という事業で、5年生となかよし学級の子ども達が田植えの体験に参加した時のことです。担当の方から「海老沼小の皆さんにはとても驚かされました。」と言われました。田んぼに入った瞬間は、どの子もわあとかギャーとか声をあげることがほとんどの中、海老沼小の子はだれもそんな反応をしなかったというのです。真剣に田植えに取り組み、最後には「お世話になりました。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございます。」と口々に言ってくれたというのです。田植えを教える地域のボランティアの方々も、とても喜んで感動していますとのことでした。子どもだから、初めて素足で泥の中に入った時は思わず声が上がってしまうのでしょうか。しかし、せっかく教えてくださる方々にとっては、あまりいい気のしないことかもしれません。本校の5年生となかよし学級の子ども達は、それを押し量り、声をあげるのをこらえたのかと思うと、本当に愛おしい子ども達だなと感じています。



先生、ありがとう！

さて、6月は「いじめ撲滅強化月間」です。「人を傷つけるいじめは、絶対に許されない」ということは、学校で常に指導し、どの子もわかっていることです。いじめを防止するための法律もできました。相手のことを思いやる気持ちがあれば、傷つける行為はしないというのは、人として当たり前のこと。ですが人は、時としてそれができなくなることがあります。先日の講話朝会では、「自分の心にしたがって正しい行いをする」ということについて話しました。きっかけとなったのは、連日報道されている日大アメフト部の悪質タックルの問題です。子ども達の関心も高くほとんどの児童が知っていました。私は、テレビで謝罪をした加害選手について、「本当に悪いことをしたと勇気をもって出てきて謝罪しているのは偉い」「自分でよくないことだとわかっているやってしまった、自分が正しいと思う心を買けなかった、そのことで自分を責め、彼自身もまた深く傷ついている」という2つの感想を述べました。朝会の後、この話について自分の考えを日記に書いてくれた4年生のクラスがあり、担任から見せてもらいました。「悪いことだとわかっているなら、本当にやらなければよかったのに」という声が多数上がっていました。「いじめはあってはならない」という正しい心がいかなる場合も揺らぐことのないように、子ども達の心に響いてくれたらうれしく思います。

6月9日(土)は、今年度から「教科」となった「道徳」の授業を全校で公開します。道徳が「教科」となって、教科書を使って授業をしたり、評価をしたりするようになった経緯は、いじめ問題の本質的な解決を図るねらいで人間性に深く迫る教育を行うためです。新しい学習指導要領(文部科学省が公示する学校における学習についての内容、時間、教科書などの基準)のキーワード「主体的」は、道徳においても「考え、議論する道徳」という表現に込められています。子ども達一人ひとりが自分自身と向き合い、多様な考えと関わりながら自らよく考え、判断し、実践していく姿勢が求められています。学校で道徳を「教科」として学習していくことの重要性と共に、子ども達がいかなる状況においても、生涯にわたって人として正しい心を持ち、他人を思いやり、愛し愛される、ゆたかな人生が歩めるよう、学校、家庭、地域が連携・協力し、一層の教育を施すことを改めて肝に銘じています。どうぞ、ご参観いただきまして、感想やご意見を頂ければ、幸いに存じます。